



謹賀新年 新しき年を迎え、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。今回、新年号では各部署より新年のご挨拶をさせていただきたいと思っております。今年も何卒よろしくお願い致します。

院長 早瀬 仁滋

謹賀新年あけましておめでとうございます。皆様のおかげをもちまして9年目を迎えることができました。これも一重に患者皆様の温かいご支援とご指導によるものと思っております。患者様の待ち時間の問題、高い質を維持した診断、対応の早い治療、難治疾患の高次医療機関への連携とさまざまな課題に取り組んでまいりました。今後も、患者様ひとりひとりが満足していただける医療機関をめざし、職員一同、日々努力をしていきたい所存であります。また、外来患者様の待ち時間を有効に過ごせる空間、入院患者様とそのご家族が安心して過ごせる空間、入院患者様が外来を通らないで理学療法室へ通える空間を提供すべく、本年より一部増築をさせていただくことになりました。つきましては、建築工事期間中来院されます患者様、ご家族様、近隣住民の皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解並びにご協力をお願い申し上げます。羊年のように、温かく・めくもりのある医療をめざしてまいりたいと思っております。

副院長 林 洋一

新年明けましておめでとうございます。

さて、今回の年末年始を久喜メディカルクリニックで過ごしましたが、この時期に最も多い救急疾患はインフルエンザやウィルス性腸炎です。現代の医療をもってすればこのような感染症で死亡することは滅多にありません。それはここ100年くらいの間に開発された抗生剤や点滴のおかげです。

日本全国の病院で当たり前に使われているこのような物資がなかったらどうなるでしょう。死亡率は多少上がるかもしれませんが、全滅に至ることはないでしょう。それは皆さんに免疫という有効な防御があるからです。歴史をみるとその防御さえなくて大変なことになった人々がいます。北米の原住民、アメリカン・インディアンです。

1492年、コロンブスがアメリカ大陸を発見してから100年くらいの間にヨーロッパからポチポチ人口の移住がありました。それからヨーロッパの農業革命で人口が爆発的に増えて、特に北米は1600年代から植民地化が進み、どんどん移民が増えたのです。一般的に白人の進んだ武器と排他的な思想でアメリカン・インディアンは大量に虐殺されたと思われていますが、当時の人口、五千万～八千万を短時間で十分の一にするのは物理的に不可能です。原因はヨーロッパから持ち込まれた感染症に原住民が免疫を持っていなかったから、と最近は言われています。当時は10～50家族の村単位で暮らしていたので、伝染病に襲われて、村人全員が動けない状態になると、致命的な病気でなくても村が全滅してしまうことがあります。村人が大勢、一気に罹患してしまうと、病人の看病や代わりに食物を取ってくれる人がいなくなってしまうからです。

植民地は当初、沿岸部で原住民の攻撃を受けながら細々と始めていたのに、数十年が経過すると、原住民をあまり見かけなくなり、奥地に入っていくと村の廃墟しか見当たらないのです。こうして広大な土地を得たヨーロッパ人はそこで裕福に暮らしていくために必要な労働力をアフリカから求めるようになったわけです。

今でも誰も免疫を持っていない伝染病が発生する可能性はあります。新型インフルエンザや鳥インフルエンザなどの騒ぎはまだ記憶に新しいと思っております。昔と違って、病気の性質、伝染のしかたがわかっているならば、悲劇は免れるのではないのでしょうか。

本年もよろしくお願いいたします。

新年明けましておめでとうございます

今年も、診断に有用な画像と、安全な医療を提供すべく、日々精進いたしますのでよろしくお願い致します。

お餅がつかえた！のどに？ いや、小腸に！？

この季節、お餅を食べる機会が多いと思います。正月はお餅をのど(咽頭などの気道)に詰まらせた方の話題がニュースで聞かれる時期です。せっかく無事に飲み込んででも小腸につかえて腸閉塞になる事があるので、お気を付け下さい。これを“食餌性イレウス”といいます。餅の他に、コンニャク、しらたき(結んだもの)、寒天、椎茸、昆布、柿など。西洋では、オレンジ、ドライフルーツなど。変わったものでは、ビニールに包装された羊羹(ようかん)など。ある程度のかたまりで消化しにくい食べ物は腸閉塞を起こす危険があります。予防は他にもなく、“良く噛んで食べる”です。ご高齢の方は噛む事が苦手なので、調理方法にも一工夫が必要です。確定診断はCTスキャンで行いますが、餅や寒天は写真に写りやすく特定しやすいと言えます。腹痛で受診する方は、2~3日中に食べたものを思い出しておいて下さい。治療は、小腸液が多い場合は、イレウス管という管を鼻・胃経由で小腸に入れて減圧し、消化が期待できる餅などは、溶けて小さくなるのを待って保存的に治療する事が可能です。狭窄がひどい場合や、消化が期待できず詰まった物が動かない場合は手術適用となります。皆さん、気を付けて下さい。



理学療法科

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり理学療法科よりご挨拶申し上げます。

現在理学療法士5名となり、徐々に質の高い理学療法を提供できているのではないかと感じております。2010年にリハビリ室を拡張し、広々としたスペースで仕事が出来ると思ったのも束の間、大の男が5人も集まれば早くも手狭になってしまいました。そう言った点ではまた患者様にはご迷惑をおかけしていると思います。当院の理学療法科に来られる患者様の病気やケガは多岐に渡ります。これまで患者様個々に対応をし、その都度指導も一人一人にしていたわけですが、最近それでは根本的な解決には至らないのではないかと感じております。患者様自身がお自分の病気やケガの特徴を知り、その上で自己管理出来るような環境を整えていかないと、仮にその時症状が改善してもまた同じような事で再発してまた通院しなければならなくなるのではないかと感じております。

今年は少し患者様方にご自身の病気やケガについて「お勉強」をしてもらおうかと考えております。もちろん病気やケガの事だけでなく、運動の事やその他の予防法などについても知っていただくかと考えております。そうすることで将来的にご自身に降りかかる医療費の削減にも繋がってくるのではないのでしょうか。

我々理学療法士は運動に関してはスペシャリストだと自負しております。ただ、それだけでは駄目で、食事の事や薬の事が運動に及ぼす影響なども知らなければいけません。ましてや運動の事に関しても中途半端な知識ではいけないと思います。患者様に教える立場である以上、患者様以上の努力を私達はしなければいけないと思います。

昨今我々リハビリテーションに関わる職種や患者様にはなかなか厳しい現状が続いております。そのような状況を打破する為にも予防というのは非常に大切です。我々がボス、早瀬院長は以前こんな事をおっしゃっていました。

「予防に勝る治療なし」

まさにその通りだと思います。病氣にならない、ケガをしない、これこそ究極の「治療」だと思います。今年はそのような観点からも皆様に関わっていけるように頑張っていこうと思います。

新しい年も、皆さんにとって素晴らしい年でありますよう、祈念いたしまして理学療法科からの年頭の挨拶とさせていただきます。

外来看護科

新年明けましておめでとうございます

皆様方に今年も良い年でありますように心よりお祈り申し上げます。

当院では、地域密着型の急性期有床診療所として、地域の皆様に信頼と安心の医療を提供いたします。

そのために日曜・祝日の診療や夜間・救急にも対応し、地域をサポートしていきたいと思っております。

現在、外来スタッフは5名の看護師で主に業務しております。

広く地域社会の人々や、患者様に信頼され、満足していただける看護を目指しております。

また、看護師として知識と技術、そして思いやりをもって安全で質の高い看護を提供できるよう、日々努力して参りたいと思います。

来院して下さった皆様とのコミュニケーションを大切に、地域の医療・ニーズに答え、地域に愛される看護師として日々、スタッフ一同努力して参りますので今後もよろしくお願い申し上げます。



検査科

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

開院から9年目に入り、検査課も現在3名で業務しています。昨年は個々に学会・研修会に参加することができました。今年もまた多くの学会・研修会に参加していきたいと思っております。

検査課は主に、採血や超音波検査・心電図等の検査で患者様とお話しする機会があるかと思いますが、何かご質問がありましたらお気軽にお声掛けください。



栄養課

新年明けましておめでとうございます

栄養課は管理栄養士2名、調理師1名、調理パート1名でお食事を作っております。

患者様の治療をサポートすることはもちろん、日々の病院食に飽きがないよう、またなによりも“おいしい”と思っただけできるよう努めております。

昨年は麺メニューを15回、季節の行事食を14種類提供いたしました。さらに、“塩タンメン”“タンドリーチキン風”“牛肉巻き”“手作りしゅうまい”“鶏トマトソースがけ”等、新メニューの導入も行いました。

また、栄養相談ではお食事が患者様の負担にならないよう、最新の情報を提供できるよう学会等にも参加し、今年も精進していきたいと思っております。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

病棟看護科

あけましておめでとうございます



病棟看護師 13 名で業務しております。

病棟の基本理念として・・・「患者様を自分の家族として思う医療」

看護部基本理念として・・・「地域に信頼される患者様一人一人に暖かく接する気持ちと看護の提供」

理念実行方法として・・・「地域住民、地域医療関連と密着した医療。医療人としての自覚と技術向上のための学習」

を、掲げております。

実践に向けるために一人一人の看護師が日々学ぶ姿勢もち専門職としての視点で一人一人の患者様にしっかり向き合い、できるだけ入院に対する不安なく治療に専念できる環境をつくり、知識・技術の習得はもちろん患者様の今後の療養生活を見据えた看護の提供が必要だと考えています。そのためにはいつも謙虚な気持ちをもち日々の業務に流されることのないよう努め、その時代・個人に合った最適な看護を提供するために看護の深化・拡大が図れるよう取り組んでいきたいとおもいます。

これからもどうぞよろしく願いいたします。

医事課

新年あけましておめでとうございます。

本年も、患者様が安心して円滑に診療が行えるように努めて参りますのでよろしくお願い申し上げます。

当院は今年で開院 9 年目となります。

現在医事課は 5 人で業務を行っております。病院の第一印象である受付では患者様に気軽にお声掛けして頂ける様に務めております。また、医事課は患者様や外部機関と接する機会が多い部署です。そのため、接遇面・医療知識向上の為、院内や医師会等で開催される勉強会へ参加し、患者様の質問等にきちんと対応できるように心がけ、少しでも患者様の不安を取り除く様に務めております。受付業務では、トリアージを取り入れ、患者様の状態を判断し、適切な対応を目指しております。初めて来院された患者様に対しては、診療の流れを説明し、初めてでも安心して診療を受けられる様にご案内しております。

私達は、患者様と病院スタッフとの円滑な橋渡しを目指しております。何かございましたらお気軽にお声掛け下さい。

患者様と信頼関係を築き、当院の掲げる「アットホームな医療」のように温かみのある接遇を目指し、精進してまいりますので今後ともよろしくお願い申し上げます。

久喜メディカルクリニック新聞 新年号挨拶

総務課 竹内 久人

新年明けましておめでとうございます。おかげさまで開院から 8 年目を迎えることができました。本年も経理・総務課 3 名で業務を遂行してまいります。

昨年は、様々な研修・講習に参加してまいりました。来院される患者様に満足していただける対応ができるよう、今年も積極的に研修・講習に参加していきたいと思っております。日々変化していく情勢の中で変化に気づき・予想して対応できるよう、そして、日々の生活の中にもあるヒントを見逃さずに活かせるよう、よく見て、よく考え、患者様とスタッフの架け橋となれるよう頑張りたいと思います。

「明日の為 小さな事も コツコツと」

本年もどうぞよろしくお願い致します。